

【国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項】

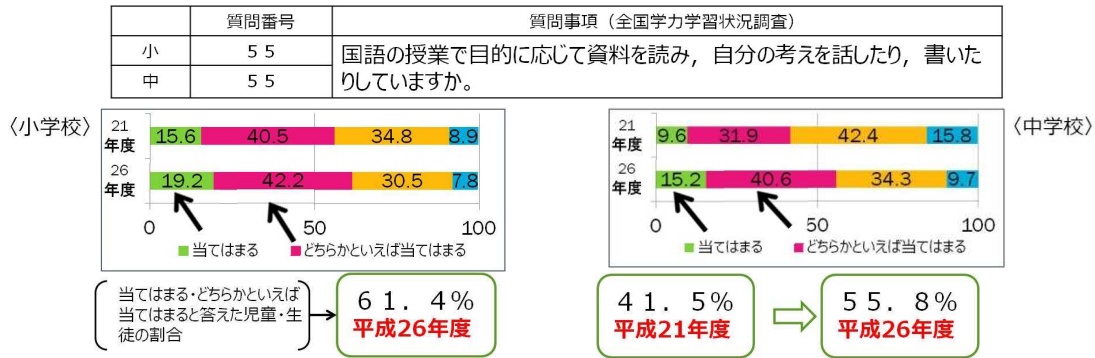
1 言語活動を位置付けた指導

(1) 成果

- ・ 課題解決的な活動を位置付け、生徒が考えを交流しながら学習する実践例が多くなっている。

(2) 課題

- ・ 言語活動により能動的な学習が行われることを、一層重視する必要がある。



- ◎ 課題解決のために、生徒が試行錯誤することが許容されているか
 - 教師の準備したマニュアルどおりに進める活動では試行錯誤が少なく、実生活で生きて働く言葉の力が育ちにくい。
- ◎ 言語活動が、実生活を意識したものになっているか
 - 授業で取り組む言語活動の背景に、実際の日常生活や社会生活が感じられることが重要。

2 小学校との差異を明確にした指導

(1) 成果

- ・ 「伝統的な言語文化に関する事項」を中心に小・中の接続や連携を意識した指導が見られる。

(2) 課題

- ・ 中学校の指導内容を踏まえ、小学校との指導の違いをより明確にした実践が期待される。

(例)

- ◎ 意見を述べる文章を書く際に、どのような具体例を示せば根拠として明確になるか、自ら複数ものを準備した上で選択する。

→ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。(第2学年ウ)

(例)

- ◎ 下級生に向けて、今までの読書生活を振り返り「私の3冊」を選び、「内容と表現の工夫」の二つの側面から各作品の良さをまとめる。

→ 文章を読み比べるなどして構成や展開、表現の仕方について評価すること。(第3学年ウ)

3 多様な本や資料を読むことに結び付ける指導

(1) 成果

- ・ 複数の文章等を比べて読むなど、教科書教材に他の文章等を加える指導が見られる。

(2) 課題

- ・ 学校図書館の活用状況に低下傾向が感じられる。[全国学力学習状況調査 質問紙調査より] (「学期に数回程度」以上と回答:[21年度→26年度] 47.2%→45.3%→43.4%→41.4%→41.7%)

中学校 国語

◎ 読書や学校図書館活用を位置付けた授業

〈話す・聞く〉・話題設定の段階で ・取材の段階で ・討論の資料 ・映像資料の活用 等
〈書く〉・課題設定の段階で ・取材の段階で ・意見の根拠, 説明の資料 ・創作の見本 等
〈読む〉・導入時に ・教科書教材と並行して ・教科書教材を補う ・発展的な読書として 等
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉・国語辞典, 漢和辞典 ・類語事典 等

4 目標に準拠した評価の趣旨を生かした指導

(1) 成果

- ・ 「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料」(国立教育政策研究所)等を使った授業が多くなっている。

(2) 課題

- ・ 言語活動の充実が進む中, 適切に評価することの重要性が一層高まっている。

◎ 国語科の学習評価を進める上でのチェックポイント例(単元を構想する段階)

1. 学習指導要領に示した目標を踏まえて, 単元の目標を設定している。
2. 単元における指導事項を明らかにしている (関連する[伝・国]も位置付けている)。
3. 上記の指導事項等を指導するために効果的な言語活動を設定している。
4. 指導事項と言語活動を関連させて, 単元における具体的な評価規準を設定している。
5. 評価規準を, 学習指導案(指導と評価の計画)に位置付けている。
6. 評価方法が明らかであり, 効率的に評価するための工夫が考えられている。
7. 評価規準について, 「努力を要する」状況の生徒に対する手だてが考えられている。

5 全国学力・学習状況調査を活用した指導

(1) 成果

- ・ 一年間の学習指導の成果の検証方法の一つとして, 調査結果を活用する事例が見られる。

(2) 課題

- ・ 継続している課題の中でも, 特に以下の内容について着目した授業改善が望まれる。

◎ 自分の考えを表す際に, 根拠を示すことは意識されているが, 根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点に課題がある。 [B 1 三, B 2 三]

◎ 文章や資料から必要な情報を取り出し, 伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて, 説明する際に, 文章や資料から必要な情報を取り出して入るが, それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に, 依然として課題がある。 [B 2 三]

→ 国語科の授業場面: 目的に応じて資料等から情報を得て, 思考・判断し, 表現する授業

6 学力調査問題, 学校における評価問題の工夫

- ・ 授業以外の場面(実生活)でも授業で身に付けた力を発揮できるかどうかを確認する。

→ 例えば, 問題を解くことによって, 授業で学習したことを想起させる。

7 文字文化に親しみ生活に役立つ書写の指導

(1) 成果

- ・ 実生活や領域の内容と結び付けた書写の指導が見られる。

(2) 課題

- ・ 書写の指導時数の目安(20・20・10時間)を踏まえた年間指導計画の作成と実施が必要

	第1学年	第2学年	第3学年
平成10年版	28時間	10~11時間	10~11時間
現行	20時間	20時間	10時間